

## 【報告】第 13 回 ESD カフェ「田んぼの猫ツシヤママネコと人々の暮らし」

2022年11月20日14:00-16:00に開催した今回のESDカフェは長崎県対馬市に生息する絶滅危惧種であるツシヤママネコをテーマに、ツシヤママネコと人が共存するために、私たちが出来る事を考えるオンラインセミナー & ワークショップを実施しました。

20名が参加し、最年少は幼稚園年中さんで（1名）、小学生低学年が2名、残りは成人でした。オンライン実施であったため関東、四国、近畿、九州と様々な地域から参加していただきました。時間の都合がつかなかったが是非、後から動画を共有してほしいと希望する方も複数名おられました。

### プログラム

1. 趣旨説明
2. キム・ファンさんの紙芝居「どうぶつ どっちがどっち？」（童心社）
3. 神宮 周作さんのお話「人とヤマネコが暮らす島・対馬 ～野生動物との共生に向けて～」
4. 吉野 元さんのお話「ツシヤママネコとの共生を目指す佐護ヤマネコ稲作研究会の取り組み」
5. キム・ファンさんの紙芝居「ツシヤママネコのシマ」
6. ワークショップと全体共有

まず、アイスブレイクとして絵本作家のキム・ファンさんから紙芝居「どうぶつ どっちがどっち？」を披露していただきました。似ている2種類の動物がどっちか見分けられるかなという紙芝居で、最後に今回のテーマの「ヤマネコ」が登場しました。

### 対馬市農林水産部自然共生課係長 神宮 周作さん 「人とヤマネコが暮らす島・対馬 ～野生動物との共生に向けて～」

ツシヤママネコを育む対馬の環境の特徴、そして島の豊かな生物多様性がもたらす恵み、対馬の生態系ピラミッドの頂点にツシヤママネコが位置すること等をご説明いただきました。また、ツシヤママネコと猫の違い、見分けるポイントについて教えていただきました。

ツシヤママネコの最も大きな脅威は交通事故です。ツシヤママネコは現在100頭程度が生息していると考えられていますが、その貴重なツシヤママネコが年平均5頭程度が交通事故によって失われてしまっています。若い元気なツシヤママネコが事故の被害にあってしまうことが多いそうです。

もう1つの脅威は、病気の感染です。FIV（ネコ免疫不全ウイルス）、FeLV（ネコ白血病ウイルス）という治療方法の確立していない感染症が猫からツシヤママネコに感染する事例が報告されています。病気に感染したツシヤママネコは施設で保護され、野生には戻れません。家猫よりも野良猫がこれらに感染している事例が多く、ネコ適正飼養条例による登録の義務化、繁殖制限、野良猫の餌付けの禁止等で野良猫の数を増やさないように取り組んでいますが、なかなか数が減らないそうです。



最後に、ツシヤマネコを頂点とする陸の生態系ピラミッドと、海の生態系ピラミッド、その2つを合わせると「生態系ダイヤモンド」となり、地元の人たちが自然の環境を守り、活かすこと、それを踏まえて全国の人が対馬の豊かな生物多様性の価値を認めることで対馬の「生態系ダイヤモンド」を守る＝生物多様性保全に繋がるという説明をしていただきました。

## 佐護ヤマネコ稲作研究会 吉野 元さん 「ツシヤマネコとの共生を目指す佐護ヤマネコ稲作研究会の取り組み」

ツシヤマネコは、10万年から対馬に生息していると言われている貴重な動物です。ヤマネコとの共生が、対馬の持続可能性に深く関わっています。

佐護ヤマネコ稲作研究会は、農家(8名)、佐護区長、対馬市職員、対馬野生生物保護センター、どうぶつたちの病院獣医師、住民、MIT等がメンバーとなり様々な活動を行っています。ヤマネコ米(自主認証基準：減農薬/減化学肥料)の生産販売、会合や勉強会、田んぼの生きもの調査、生きものに配慮した環境整備、ツシヤマネコ保全活動への寄付などが主な活動です。

佐護ヤマネコ稲作研究会の田んぼでは、ツシヤマネコの餌となる生きものが生息しやすいよう減農薬、減化学肥料の米作りを行っています。これは、田んぼの生きもの・ヤマネコにとって、そして生産者、消費者の3者にとって Win-Win-Win の取り組みになっています。

2018年に実施された生態調査では複数のツシヤマネコが実際に水田を利用していることが確認されました。田んぼに出てくるヤマネコの姿はしばしば確認されています。生きもの豊かな田んぼには、ツシヤマネコ以外にも夏場にはサギが、冬場には雁・カモ等の渡り鳥が餌を求めてやってきます。

最後に田んぼのオーナー制度についてご説明いただきました。田んぼの一部のオーナーになっていただき、そこから獲れたお米をオーナーさんにお届けする、田んぼで行われるイベントへの参加権、農家さんの情報の提供などを得られる仕組みです。自分たちの食べるお米がどのように生産されているかを知る貴重な機会となっており、子どもたちも多く田んぼのイベントに参加しています。オーナーの参加口数、ヤマネコ米の販売量は幸い年々増えているものの、より多くの皆様にご支援いただければ幸いです。

今後の課題については、田んぼの取り組みがヤマネコなど生きものに与えている効果の検証、研究会の活動を支えてくださる仲間を増やしていくことです。お米を販売して下さる方、購入して下さる消費者、そして研究・調査をして下さる方などに仲間になっていただきたいです。

次に、キム・ファンさんから紙芝居「ツシヤマネコのシマ」を披露していただきました。この紙芝居は上記で触れられているツシヤマネコの交通事故の問題と田んぼの重要性を題材にしています。ツシヤマネコの子どもが車に轢かれそうになる様子、それを回避するために「ネコ走り」というネコが歩ける場所が設置されていることが紹介されました。「ネコ走り」をつくるだけでなく、機能させるためには定期的に水路の清掃が必要ということもお話の中で説明されました。



後半は、利害関係者ロールプレイを行いました。このロールプレイの狙いは以下の通りです。

- 予め、問題の状況に対して、あえて極端な対策（ルール）を提示します。
- 「提示した対策（ルール）」に対して、グループ毎に、与えられた立場から意見を出して、ディスカッションします。
- それぞれの立場からの意見を出したのち、最終的にそのグループで出た結論（ルール）を理由を添えて発表します。

今回は3つのグループに分かれてそれぞれ別々のテーマでディスカッションを行いました。

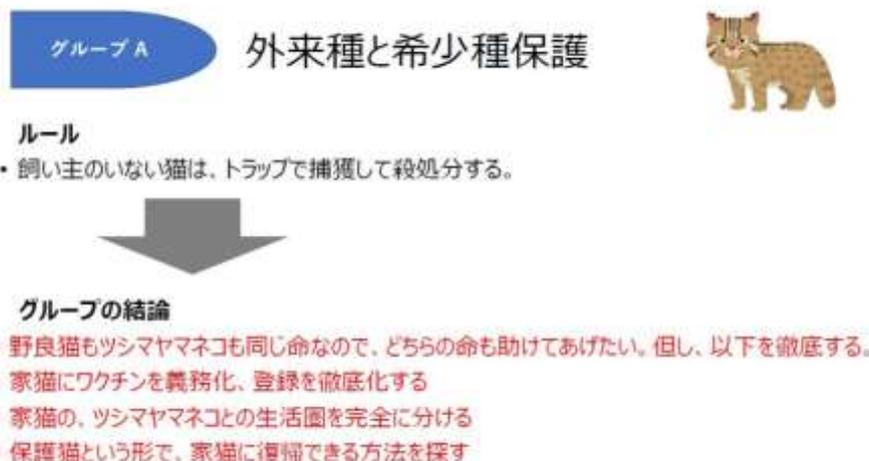
ワークショップのテーマ(一覧)			
テーマ	状況	ルール	プレイヤー
外来種と希少種保護	人が持ち込んだ猫が野生化して、どんどん増えていき、猫エイズの感染等、希少種に脅威を及ぼしている。	飼い主のいない猫は、トラップで捕獲して殺処分する。	①野猫 ②ツシマヤマネコ ③猫愛好家 ④自然保護派 ⑤仲介者（司会役）
農業の担い手と農法	農業の担い手が高齢となり、手間のかかる農法は無理。ヤマネコの餌となる田んぼの生きものが居なくなっても仕方がない。	農薬を散布して畦を除草し、殺虫剤を散布して害虫を処分する農法を選択する。	①田んぼのカエル ②ツシマヤマネコ ③高齢の農家 ④環境保全NPO ⑤仲介者（司会役）
ロードキル	観光客や移住者が増えれば島は豊かになるが、人が増えると車が増える。ヤマネコは100匹しかいないのに、毎年平均5匹ずつ交通事故で命を落としている。	夕方17時から朝6時まで、緊急車両を除き、自動車の利用を廃止する島ルールを実施することに決めた。	①島民 ②ツシマヤマネコ ③行政 ④自動車メーカー開発部門 ⑤仲介者（司会役）

グループAで話し合った内容を例としてご紹介します。

グループA		ワークシート	
プレイヤー-1	プレイヤー-2	プレイヤー-3	プレイヤー-4
野猫 (3000頭くらい) 20%病気感染の可能性あり	ツシマヤマネコ (100頭)	猫愛好家	自然保護派
<ul style="list-style-type: none"> <li>• とんでもないルール</li> <li>• 好きで病気になるわけではないので、助けてほしい</li> <li>• 病気の治療方法はないのか（今のところ、ワクチンはあっても、治療方法はないという現状）</li> <li>• 保護猫という形で、家猫に復帰できる方法を探してほしい</li> <li>• 家猫が野良猫になるので、家猫にワクチンを義務化できればよいのではないか。</li> <li>• 登録は義務だけど、徹底できていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 変な病気にかかりたくないのでも、野猫は捕まえて、全部殺してほしい</li> <li>• 病気の面もあるが、食べ物をめぐってのライバルなので、野猫はいない方がよい</li> <li>• 家猫の生息域（完全家の中）と、ツシマヤマネコとの生活圏を分けてはどうか</li> <li>• ツシマヤマネコにワクチン接種（リスクがなければ）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 野良猫もツシマヤマネコも同じ命なので、どちらの命も助けてあげたい</li> <li>• 野良猫を保護して、新たな飼い主を見つけてあげるのがよい</li> <li>• 猫の移動は、できるだけ制約しない方がよい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 野良猫によって、ツシマヤマネコの生態が脅かされるのであれば、野良猫は処分せずに、保護したり、ツシマヤマネコと接触しないようにすればよい。</li> <li>• 猫カフェのような、人と猫が暮らせる場所をつくることで、猫の居場所をつくる。</li> <li>• 野良猫を全て捕まえて、病気の検査、不妊措置を徹底</li> </ul>

赤字の部分がディスカッション後に全プレイヤーが合意した内容

ルールの改定については、以下の通り意見がまとまりました。



参加者からは、以下のような感想が寄せられました。

#### ■特に印象に残ったことは何ですか？（以下回答抜粋）

- ・ 対馬の土地が知れたこと、参加者の方々と話し合いができたこと、可愛い紙芝居が見られたこと！
- ・ 学ぶ（紙芝居）ことと考える（ロールプレイ）ことと共有するパートがあり、全体の構成がとても勉強になった。また、それらを通して、「自分事」になると感じた。
- ・ 紙芝居：子どもたちがかぶりつきで見ていて、「どっちがどっち」では画面を指さしあーだこーだと大騒ぎでした。シマが車にひかれそうになった時は怖くて目をつぶり、思っきり感情移入していました。
- ・ 講師の方のお話：写真が多くてとてもわかりやすく、大変勉強になりました（ちなみどれがツシヤママネコかというクイズは親が外れて子どもが当てました・・・）。交通事故や野良猫の問題など、ツシヤママネコをとりまくいろいろな課題がある中で、試行錯誤しながら守っていかうとされていることがよくわかりました。
- ・ ツシヤママネコの保護には、地域全体の取り組みが必要で付け焼き刃の対処法では不十分であること。低農薬で管理されている田んぼを田んぼとして維持することは、高齢化が進む地域では非常に大変だが、環境教育の一環として地域の子どもたちや、他の地域の関心のある方が関わることで可能となることを学んだ。
- ・ マシマロ・バンパーという柔軟な発想があって面白かった。

#### ■ワークショップはいかがでしたか

1. 大変良かった 6名 2. 良かった 3名 3. このパートに参加できなかった 1名
- ・ 自分の意見だけでなく、様々な人から意見が出たので面白かったです。
  - ・ ロールプレイを用いることで、考えもしなかった視点を考えるきっかけになるとともに、「その人（発言者）」を肯定も否定もしない手法だと感じた。
  - ・ どんな意見も受け入れてくれて、とてもお話しやすく、ありがたかったです。ロールプレイをすることでより理解が深まりました。
  - ・ 意見交換しやすい様に工夫されていてよかったです。子どもさんの参加もいいですね！
  - ・ 色々な立場の意見がきけて、勉強になりました。仲介者の話がリアルで現状を知ることができ、よかったです。

## ■自由なコメント（以下抜粋）

- ツシヤマネコについて、その大枠をすることができたこと、そして、ヤマネコを取り巻く環境がどのような状況にあるのかを知ることができた。複数講師だったが、切れ目なく、プログラムが進んでいたため、学びの充実につながった。
- 本当に楽しく、学びの多い時間をありがとうございました。子ども達にとってもとてもインパクトがあったようで、寝る前にも思い出して兄妹でツシヤマネコの話をしていました。私の出身が瀬戸内海の島で、やはり島にしか生息しない種があることは知っているのですが、保護活動等については全然知らないで今度聞いてみようと思います。
- このようなワークショップは、小学生～高校生でも大人のサポートがあれば十分理解できるので、学校現場でも活用してもらえればと思った。
- お金がかかるだろうとは思いますが、もっとネコ走りを有効活用していければ良いですね。
- 島外に住む私たちができること、やってほしいことあれば教えてください。
- これからもツシヤマネコ関連のセミナーがあればぜひ教えてください！
- これからもツシヤマネコを守ってください。楽しかったです。

参加者の皆様の感想からは、ツシヤマネコをめぐる環境や課題についてきちんと知っていただけたこと、そして知ったことで島外に住む私たちでもできることはないか、もっとツシヤマネコのことを知りたいという次のアクションに繋がる学びとなったことが読み取れました。実際にツシヤマネコ米のご購入をいただいた参加者も多く、本イベントの狙いである「行動変容に繋がる学び」の創出ができたのではないかと考えています。

本イベントの開催にご協力いただきました神宮さん、吉野さん、そしてキムファンさん、誠にありがとうございました！

### <リンク>

- [対馬市農林水産部自然共生課](#)
- [佐護ヤマネコ稲作研究会のウェブサイト](#)
- [キムファンさんのブログ](#)

※本事業は、公益信託大成建設自然・歴史環境基金の助成を受けて実施しています。